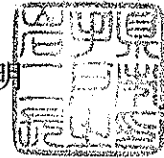




建 第 54 号  
平成 19 年 5 月 7 日

国土交通省道路局長 様

岩手県二戸市長 小 原 豊 明



中期的な計画作成にあたっての意見の提出について

平成 19 年 4 月 2 日付、国道企第 1 1 4 号で依頼のありましたこのことについて、別紙のとおり提出いたします。

平成19年5月7日  
岩手県二戸市

中期的な計画の作成にあたっての意見について

1. 今後の道路政策や道路の整備・管理について

・重点化を進める上で特に優先度の高い政策

中山間地域における市街地のメイン通りや通学路、住宅密集地の生活道路は、日常の快適な生活空間と交通安全の確保を図るため、早急な歩道整備が不可欠である。住宅地の郊外化が進む中、空洞化が進行する中心市街地の活性化を取り戻すためにも、人々が安心して往来できる道路環境整備に投資すべきである。

また、地形的に谷状を呈している中山間地域では、平地を走る道路に雨水等の流入が集中するため、雨水排水等に充分留意した排水構造物を研究検討し、道路整備を進める必要がある。

① 中小都市市街地への集中投資による道路環境整備

市街地のメイン通りは、一般県道（旧国道4号）で日交通量1万台を有する路線であるが、歩道の未整備区間が多く通学路の一部区間ではセーフティーポールで歩車道を区分し、児童生徒を始め歩行者の安全保護を図っている。しかしこの方法では車道部が狭くなるため、ドライバーは走行時の恐怖感をぬぐいきれない状況にあり交通事故の発生が危惧されている。近年の急速に進む高齢化社会において、お年寄りや子供達の安全を守るため歩車道分離の道路整備は不可欠なものであり、またスペースの有効利用と景観へ配慮した電線の地中化も併せ、安心して通行できる、快適な道路空間の確保が望まれている。しかしながら、地方は財政的に極めて厳しい折から本計画により空洞化が進行する中心市街地の安全安心な生活環境と活性化を図るべく集中的な投資をすべきである。

② 通学路の道路環境整備

通学路や学校周辺の道路環境は、主要な国県道から奥まった市道部であり、歩道が整備されていない児童生徒の通学区間が多く非常に危険度が高い状態にあるため、通学児童等の安全を確保するため、早急に歩道整備が必要である。

③ 住宅密集地の道路環境整備

住宅密集地の狭隘な生活道路は、地権者と地域との合意形成を図りながら、交差部の隅切りや待避所の設置など可能な箇所からポイント的であっても整備の必要がある。

④ 中山間地における雨水処理

中山間地域にあっては谷状の地形を呈しているため、背面に沢目を抱える道路が多く路面排水を始めとする雨水排水処理に苦慮している。

しかしながら、都市下水路までは到底手が及ばない状況下で、道路の排水機能を兼用し、一定程度の通水断面を確保しながら、道路や家屋などを浸水被害から守る必要がある。そのことから、特定の場所については、防災対策の役割も担った道路排水構造物として整備の必要がある。

⑤ 融雪システムの整備

市街地の縦断勾配のきつい道路で、改良の困難な区間においては、融雪システム設置等について、高率補助で事業採択できるように配慮されたい。

・効率化を徹底的に進める上で重視すべきこと

① 中期的なコスト縮減

既存の道路環境の整備にも力を入れて質的向上を図り、また道路維持修繕や管理に努め中期的なコスト縮減を図る。

② 災害関連事業の事務的な手続きの簡素化

道路災害復旧事業と改良事業を併せて進める、災害関連事業の採択や実施においては、事業の効率化を図るため事務的に手続きが簡素に行えるよう制度の見直しを検討されたい。

・その他、道路政策や道路の整備・管理全般に関する意見

① 補助率のアップ

中小の自治体においては財源確保に苦慮しており地方道路整備交付金事業等の補助率アップの措置を講じられたい。

② 生活道路の特別な配慮

地域住民の生活を守るための道路については、経済効率が低い路線であっても地域間格差解消から特別な配慮が必要である

③ 歩道空間の確保

学校周辺や病院、ショッピングなどに安全かつ気軽にどなたでも出かけられること。また、健康志向の高まりも顕著であり、ウォーク、自転車走行など自転車を含めた歩道の空間が極めて大切である。

④ 効率的融雪システムの開発

冬期間における、路面凍結時のスリップ事故多発箇所に設置する融雪システム導入について、初期投資、メンテナンス双方ともより効率的なシステム開発が望まれる。